

令和4年度 第2回 吉田町地域公共交通協議会 会議録	開催	日時 令和5年1月11日(水) 午前10時00分～11時50分	
		場所 吉田町役場5階会議室2	
議事	(1)地域間幹線系統に係る評価及び町の取組状況について (2)地域間幹線系統に係る国及び県補助路線協調補助について (3)「(仮)新しい交通」について		
出席委員 16名	(公共交通協議会) 別紙「令和4年度第2回吉田町地域公共交通協議会出席者名簿」による		
欠席委員	1名		
オブザーバー	名古屋大学大学院 3名		
傍聴者	なし		
	議事内容		
会議の成立	委員総数17名の内16名が出席。過半数を超えており会議は成立。		
議事(1)	<p>開会(10:00)</p> <p>(1)地域間幹線系統に係る評価及び町の取組状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務局説明(資料No.1) ○静岡県交通基盤部 説明(資料No.1) ○しずてつジャストライン 説明(資料No.1) <p>【質問・意見等】</p> <p>○委員：地域公共交通計画を策定して事業を進めていくため、来年度の様式3について抜本的に変えていかなければいけない。</p> <p>例えば、榛原高校は、ホームページで通学に使えるバス路線を紹介している。さらにそのバス路線をらせるよう始業時間を遅らせることまでやっている。そういう取組をすることで生徒募集を図っている。今はこういう取組をしないと通学が不便で定員を充足しないというのが今の日本中の高校状況である。地域間幹線はまさにそのためにあるものである。路線維持のためにたくさん乗ってもらうには何をしなくてはならないかという取組をしながら令和6年度に向けて中学3年生に利用促進を呼びかけていかなければならない。今年取組は資料のとおりだが、来年のこの様式には、ここに書ききれないくらいの取組をしていくべき。</p> <p>これら系統の収支率は目立たないように書いてあるが、5割を切っている状況。つまり運賃で半分も賄えていない。赤字の半分までを国と県が支援し、それでも不足する部分は関係市町が支援している。この路線を維持するために本来であれば補助金を繰り出すことも必要だが、「地域でこの路線を利用して支えていく」という啓発をしていかな</p>		

ければならぬ。この様式3の取組内容が充実するように、この会議がそのための作戦会議として機能すればと思う。

この議事としては、様式3はこの内容で異論はないが、数字を見れば楽観することは出来ない。コロナ禍よりは戻ってきているとはいえ戻りきってはいないし、燃料高騰などもあるため、皆さんのそれぞれの立場で利用促進のための啓発をしていただきたい。

○委員：コロナ前は校外学習でバスを利用していたが、現在はマスク着用出来ない子どもがいるためバスの利用をやめている。今後はウィズコロナでバス利用をしていくが、バス路線が減便になると学習のために使いたい時間に使えないと困ると感じた。日中の乗車人数が少ないのであれば小型のバスを走らせることもあっていいのではないか。また、自身が通勤に藤枝相良線を利用してみたところ、始業時間に間に合わないことがあり、使い勝手が良い時間帯であればいいと感じた。特急静岡相良線を利用している教職員にとっては非常に利便性が高く通勤に使われている。また、子どもたちにバスの乗り方を学習するという点でも、バスを活用できる方法を検討しているが、バスに乗って行くのに適した程よい距離と学習場所があれば多く利用させていただけると感じているが、学習出来る行き先がないか探している。

○委員：行先は非常に大事。ここからバスに乗って楽しい場所があるかと考えたときに、確かに弱い。吉田町内も弱い。後で話題にする新しい交通で行けるようになればいいと考えている。地域間幹線は沿線の他市町と一緒に横連携で地域間幹線の魅力を作っていくこと、まさにこの取組しなければならない。これについて静岡県の取組は何かあるか。

○委員：エリアごとの取組はないが、今年度から県の地域公共交通活性化協議会を立ち上げてそこで中部、西部などのエリアごとの意見交換の場を設けたところで、今後は、県の公共交通計画を来年度策定予定しているが、その中で吉田町も含めた中部地域の課題を整理していこうと考えている。

○委員：中部運輸支局としては「交通圏」として評価する考え方があるが、このエリアでは吉田町単独では出来ないもので、吉田町を通っている路線を含めて交通圏としてとらえ、静岡県や中部運輸支局にも関わっていただき地域間幹線の魅力を作っていく必要がある。今、地域公共交通は「共創」がキーワードになっている。沿線の皆さんの教育機関、商店や病院等と一緒に地域全体として公共交通を活用する取組についての補助も拡充するという話もある。運輸支局と

	<p>しては何か取組はあるか。</p> <p>○委員：静岡県が公共交通計画を策定中でそのための地域部会として東中西部、伊豆の4つのエリアの課題の抽出ということでまだ活発な議論があまり進んでいないが、今後議論を進めていただく中で支局もサポートしていきたい。</p> <p>地域間幹線系統確保維持改善事業評価基準に基づく地域間幹線系統に係る市町の取組（案）のとおり静岡県生活交通確保対策協議会会長への報告</p> <p>⇒「異議なし」、原案のとおり承認</p>
<p>議事(2)</p>	<p>(2)地域間幹線系統に係る国及び県補助路線協調補助について</p> <p>○事務局説明（資料 No. 2）</p> <p>○委員：県の方で公共交通計画を策定する中で、有効なものはない。最低限確保するためには、これが必要だということで「もっと乗ってもらうにはどうするか」というところにまで至らないことが多い。県と沿線市町などが一緒になって考えることが必要。鉄道ではそういう取組はあるが、バスも同じ。地域間幹線は補助金をいただいているので、頑張っても補助金が減るだけでやる気がわからない。現在、「インセンティブ補助」で頑張った部分が交通事業者へ還元されるような仕組みが検討されている。財政的に厳しく放漫していれば予算が削られていくだけなので、そうならないためにも地域間幹線を守っていく取組を県には考えていただきたい。町としてはきちんと横連携をとって補助していくということで認めるということではいかがか。</p> <p>地域間幹線系統に係る国及び県補助路線につきまして、協調補助を行う。</p> <p>⇒「異議なし」、原案のとおり承認</p>
<p>議事(3)</p>	<p>(3)「(仮) 新しい交通」について</p> <p>○事務局説明（資料 No. 3）</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>○委員：2点確認したい。資料の6ページ運行計画案にある予約の方法で1点目は朝の予約はいつまでにするのか、2点目は朝の時間帯のジャンボタクシー2台使用となっているが運行可能か？タクシー事業者は1社で2台保有というところが多く、運行に支障出るのはないか。予約時間を早めることや他の車両で賄うなどの工夫が必要と思われる。</p> <p>○事務局：朝の運行分の予約は前日を検討している。ジャンボタクシ</p>

一がなければ小型車に振り替えることは検討している。

○委員：朝は「定時定路線」の場合はそもそも予約が不要なのではないか。

○事務局：人数の確定が必要のため予約は必要。「半定時定路線」のため定路線から少し離れた乗降場所も拾っていくため予約は必要になる。

○委員：完全な定時定路線であれば、そうでないところは前日に予約を入れれば乗ることが出来るということは現時点では案でこれから詰めていくことになる。朝は多くの予約が入ると、バスへの乗継時間等に合わなければならないこともあるため、そうなるとある程度の時刻表が出来ていく。

○委員：以前町とは打合せしているが、料金に関して、既存のバス路線が走っているエリアのためバス運賃と比較したときに妥当な料金になるように検討して欲しい。また、スケジュールについてだが、具体的に実証実験はいつからやるのか。お願いになるが区域運行で地域間幹線の補完となるものなので未来を向く前向きなお話なのだが、他市町を見ても実験だけやってあとはうやむやになって終わっている事例がある。令和8年度の本格運行にむけてどんなどころを検証し、可否を判断する指標を提示いただけるとイメージしやすいと思われる。公共交通計画のいくつかの施策と関係するものがあり、それぞれの進捗状況をこの会議で今後教えていただきながら進めていただきたい。というのも(3)の通学定期券の購入補助制度導入については非常にありがたいお話なので、お客さんにとってもありがたいことで、利用促進につながるので「新しい交通」以外にも進捗状況を教えて欲しい。

○事務局：予算の調整中のため明言は出来ない。実証実験は6カ月間の期間で考えている。9月か10月の開始を検討している。

○委員：「新しい交通」については、計画の21、22ページのとおりで考えているが、来年度の9月というのは学校が2学期の開始ということでタイミングとしては良いが10月からになるかもしれない。令和8年度までは実証実験、5年度後半から6、7年度、毎年見直ししていく。失敗する可能性もあるが、まずは21条申請をし、いわゆる貸切乗合、地域公共交通協議会の認定はしてもらおうが、令和8年度以降は4条で運行していく予定。どのくらいがやるかやらないかは必ずしも明確にお示しできないかもしれないが、利用がどのくらいあるか、乗継など他の交通へどのように波及していくかなどのモニタリングはこちらでやるので、事業者の方々にもご協力いただきたい。

○委員：事業者単独で続けるのはなかなかしんどい内容なので吉田町の力添えが必要となっていくので早いうちからみなさんとイメージを持ちながら経過をみていくというかたち進めていけたらと思っている

○委員：注意点としては、これはフィーダー路線に認定されるため、島田静波線、藤枝相良線の地域間幹線に接続する前提となれば国庫補助の対象になるので負担は少しは軽減される。まだ制度的に出来ていないが、バス事業者と連携し、エリア一括の新しい補助制度ができるので、それお俯瞰しながらバス事業者が幹として、枝の方はこの「新しい交通」をタクシー業者様に担っていただき、吉田町全体移動できるということをこの会議で制約し、それを5年間やると国がその5年間は支援を約束してくれるという制度が来年度設計されてくる予定なのでそこにもっていくということも考えたい。今後は補助が多くなっていくので事業者としてはやりやすくなると思われる。新しい制度をやると面倒くさいことが出てくる。逆に制度作りに参加できるので、吉田町で「こういうところが面倒だ」とこちらから発信していくと、その面倒くさいところを突破する制度になるので、面倒なことにお付き合いいただくことになるがご協力いただきたい。

○会長：いかにして利用してもらえるか、「利用したいな」というものになって欲しい。ぜひ成功してもらいたいと思います。いかにして利用者の掘り起こすかですね。

○委員：今日ここへ来るときに片岡北吉田特別支援学校前からタクシーに乗り換えている方がいらっしゃって、あれを見て希望が湧いた。バスからタクシーに乗り継いでいる方がいて、今後それがもう少し安い値段で連携していけたら可能性があるのではないかと。現状どのくらいタクシーは利用されているか分からないが、どうでしょうか。

○委員：実はある企業が出張で来る方が吉田町に来る際に片岡北吉田特別支援学校までバスで降りてタクシーに乗り換えている。2009年のリーマンショックまでは元々藤枝駅や六合駅からタクシーに乗車していたところをコストダウンで吉田町までバスで来て、タクシーに乗り換えることがかなり増えている。弊社としては痛手だが、エコである、コストダウンになる、既存のバスを使うことで地域を活性化するというところで理解している。結構な方が交通結節点となるバス停までの利用は増えているのでそんなことからタクシー需要もある程度見込んでいる。正直、「新しい交通」を実際にやってみないと分からない。

○会長：役場前までタクシーで来る高齢者を目にするところがある。タクシーを待機させて役場で用事を済ませている。タクシー需要がある

ことを実感する。

○委員：それがタクシー料金ではなくもう少し安く乗れるということになれば、もっと需要は増えて、お客さんが常に乗っている状態になって欲しい。芽はあるかなど。全く箸に棒にもかからないということはない。ただ、これは相当チャレンジングなことで、全国的には成功事例はそれほどないが、「成功して欲しい」という強い思いがある。上手く乗り継いでいければ市街へ早く行くこと出来、町内は細かく乗り降りできて料金はそう高くないという便利なものとして確立し、「吉田で出来なければ全国でも出来ない」という思いでやるしかないなと思っている。皆さんでもうちょっと盛り上げましょうよ。

○委員：「タクシーは一人で乗ると贅沢品」というイメージを持たれている。乗合で乗ることを便利だと思っていただけならば、3人とか集まって乗る等便利だと思ってもらえれば可能性はあると思う。うまくバスに乗り継ぐなどチャレンジする価値はあると思う。「補助金に頼る」というのではなく、補助金があるから挑戦するという気持ちで取り組んで欲しい。失礼な言い方になるかもしれないが、交通の懇談会等で「こういう交通手段が欲しい」と強く言われる方がいるが、蓋を開けてみると実際は乗らないということがある。むしろ高校生等若い世代は核心をとらえた立派な意見を持っているので是非聴いていただきたい。

○委員：高校生へのアンケートも良いと思うが、公共交通がどうすればよくなるかを高校生だけで考える機会を設けるのも一つの方法だと思うので検討して欲しい。

○委員：他の市町で高校生だけで議論する場を設けている。「将来後輩が学校に通学しやすくなるにはどうすればよいか」という思いをもって真剣に取り組んでいる生徒もいた。ここでは榛原高校の生徒にも関わっていただいて「どうしたら乗ってもらえるか」を考えていただければと思っている。

○委員：公共交通の問題を考えると、「乗り物」にフォーカスしがちだが、「行き先」も大事だと思っている。「そこでしか手に入らないもの、食べられないもの」があると思うので、本当に良いところがあるのに町民も知らない「行き先」に注目することで、「そこ」に行くにはどうすれば良いかと考えた時に、新しい交通で行けるようになればいいなど。「行き先」という視点も必要だと思う。

○委員：伊勢市でもその話題が出て、二十歳の子たちがおすすめの店を選び、お店や企業から寄付を集め、バス車内に乗車証明書やパンフレットを置いてそのお店に来てもらうという企画をしていた。その特

	<p>典は市外の方でも使えるので、そのお店に行ってもらって、知ってもらい地域をもっと好きになってもらおうという企画だった。吉田町でも同じことするのではないが、こういった地域で面白いものを見つけ、そこに行く手段として公共交通を使ってもらおうという面白いことが出来ると思う。</p> <p>○委員：10年くらい前にこの「新しい交通」のような話題を聞いたことがあり、その頃は実感がなかったが、今70代になって近所にも免許返納者がおり、「自動車に代わる交通手段がないか」ということで心配していたが、ぜひこういった交通手段があれば助かると思うので協力していきたい。</p> <p>会長：それでは「新しい交通」について、住民懇談会の結果、予算、関係者と調整をして本日の協議会で出されたご意見を踏まえて今後も引き続き検討を重ねていくことで御異議ないか。</p> <p><u>⇒異議なし</u></p>
	<p>閉会（11：50分）</p>